

グループ名称 えがお ファミリー 33

検討課題 介護職員の考え・介護への認識の相違

検討課題から話し合いによって抽出された問題点

1. 年齢・経験年数による 職能・認識の差
2. 経営者と現場の管理者&職員の 方向性の差
3. 男性職員と女性職員の 気付き・技術の差
4. 介護職員同志でも 日常の業務の 促し方の差
5. グループホームの あり方とは...?

本

討義参加者 岡村・谷口・藤原・明豆・倉田・畑

問題点に対する解決策

- 『一日の業務のみをこなし、利用者よりも優先』
毎日 各々の職員が 責任を持って 何名かの利用者を担当し、その方の一日も全て(食事・排泄等)把握。
- 『職員により バラバラ』
マニュアルを きちんと明記し、それを実行。例) 毎日 利用者の『000した11』を聞き、利用者本位で進める。
- 『現場を把握してない経営者からの言葉が 納得いかない』
できる限り 連絡を取って 不安・不満を解消してあげるよう 叔父が努力する。
- 『男性職員が 調理に一生懸命さが 感じられない』
他職員も 協力し合い 調理・盛り付けまでの システムを作る。
- 『グループホームにおける 介護職の あり方とは』
介護職が 目標立て、自分達で評価する。利用者の状態により 今後は あり方も様々になる。

仕事は 笑顔で... 仕事場に入ったら 『自分に 笑顔を』